

DEAR 会員・支援者の皆さま

5月に開催された2010年度会員総会で承認された事業報告・計画等をまとめ、お送りいたします。報告書・決算書の全文はDEARのウェブサイトにも公開していますので、併せてお目通しください。

1. 2009年度事業報告（中期方針に沿って）
2. 2010年度収支計算書・2009年度予算書
3. 2010年度事業計画



1. 2009年度事業報告（中期方針に沿って）

はじめに ～2009年度を振り返って

2009年度は、60年ぶりの政権交代が実現し、NGOを取り巻く環境にも少し変化が見られました。市民の声が政治を動かすことを証明したといえるでしょう。世界でも核廃絶に向けた世論の形成など、市民の声が大きくなうねりになりました。貧困の撲滅や環境問題など、世界の様々な問題に対して、政策の変化を促す市民の力が益々重視されてきています。

中期方針2年目となる中で、DEARは国内外の課題を見据えながら、教育をとおして、より公正な社会をつくるための事業を行ないました。中期方針として掲げた5つの柱に関しては、実施体制を整え、事業を進めました。

また、年度当初に計画した4つの領域「Ⅰ. ネットワーク事業」「Ⅱ. 調査・研究事業」「Ⅲ. 情報・出版事業」「Ⅳ. 研修・講座事業」においては、概ね事業計画通りに各種事業を実施することができました。各中期方針の成果を以下に報告いたします。

1. グローバル化による諸課題を足もとの課題から捉える視点を広げる

地域の課題へどのように向き合うのか、また地域の課題に取り組むためにはどのようなファシリテーションが必要なのか、を学ぶための研修会を、大阪事務所の運営委員と協働で実施しました。各地の課題や取り組みを全国の参加者とともに共有し、話し合う時間が持てました。また、地域の課題に取り組むファシリテーションについては、ネットワーク会議でも先駆的な事例を共有しました。

昨年度同様「教材体験フェスタ2010」では、国内の開発課題や足もとからグローバル化による諸課題を考えるワークショップを積極的に展開し、課題に取り組む姿勢を育みました。「ESD・開発教育カリキュラム」部会でも、地域で足もとの課題をテーマにして作成された教材やカリキュラムの研究をおこない、冊子として発行する準備をしました。

<具体的事例>

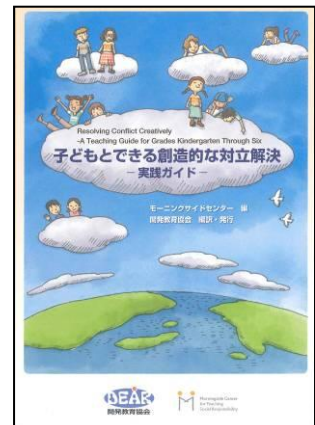
- ・有機農業実践家・須田登さんに学ぶ持続可能な農業と環境 in 有田（12月）
- ・埼玉県小川町を訪ねるフィールドワーク（1月）
- ・共生型ネットワークと基盤とする地域コミュニティのあり方 in 近江八幡（1月）
- ・教材体験フェスタ2010（3月）



2. 学校教育への具体的提案

知識偏重の学力を重視する教育改革がすすむなか、「CR教育研究会」や「授業づくりサークル」では、学校で開発教育を実施しやすい環境づくりやプログラムづくりを実施し、実践事例を共有し、研究を深めました。授業づくりサークルでは小学校、中学校での実践を共有し、各自の現場で実践するための工夫などを話し合いました。

CR教育研究会では『子どもとできる創造的な対立解決－実践ガイド』を発行し、プログラムを長期的に広めていくための基盤作りを行ないました。



3. 国際協力NGOとの具体的協働

国連ミレニアム目標 (MDGs) の達成のために社会の意識を喚起するための団体「動く→動かす」や教育協力 NGO ネットワーク (JNNE) のキャンペーンに積極的に参加し、教育ツールの作成やキャンペーン推進に協力しました。

また、国際協力 NGO が行っている MDGs 推進のための資料や教材、キャンペーンについて整理、収集しました。今後は随時ウェブ上にアップする予定です。



ログの開設を行ない、より多くの人々に DEAR を知ってもらおう基盤をつくりました。

また、「就業規則」について検討を重ね、来年度より施行をすることになりました。さらに、2012 年度に設立 30 周年を迎えることから、「30 周年記念事業特別基金」を設置しました。来年度以降、教材の作成や記念事業の準備を進めていきます。



2009年5月18日(金) 神奈川新聞

4. 地域との具体的連携

第27回開発教育全国研究集会を仙台をはじめとする東北各地の有志で集まる実行委員会と共同で開催しました。また、第6回「開発教育全国ネットワーク会議」では地域の課題に取り組むファシリテーションについてや、地域の課題を扱う教材について、経験・情報を共有し、積極的な意見交換がされました。



5. 組織基盤の強化

自己財源の安定化のために、現在のデータベースを最大限に活用するための戦略として、新データベースの導入を検討しました。来年度より具体的に進める予定です。広報戦略に関しては、出版物案内の作成、メルマガの配信、スタッフブ

会員数

2010年3月末現在の会員数は、次の通りです。
(括弧内は昨年末比の数字)

正会員	団体	20団体	(-7団体)
	個人	422名	(-14名)
賛助会員	団体	22団体	(+5団体)
	個人	261名	(+25名)
(内学生会員：51名 / +5名)			

<延べ数>

団体会員	42団体	(-2団体)
個人会員	683名	(+11名)

講師派遣件数

75件 145回

出版物

- ・会報「DEAR ニュース」(年6回)
- ・研究誌「開発教育」Vol. 57 (10月)
- ・教材『子どもとできる創造的な対立解決一実践ガイド』(3月)
- ・教材「グローバル・エクスプレス サンプル版」ハイチ地震 (1月)
- ・教材「グローバル・エクスプレス サンプル版」チリ地震報道 (3月)

2. 2009 年度収支計算書・2010 年度予算書

I 収入の部

科目	2009 年度予算額	2009 年度決算額	差異 (2009 年度)	2010 年度予算額
1. 会費収入	6,532,000	5,935,000	597,000	6,098,000
団体会員	980,000	960,000	20,000	
個人会員	5,168,000	4,696,000	472,000	
学生会員	384,000	279,000	105,000	
2. 寄付金収入	210,000	298,467	△88,467	1,300,000
一般寄付金	210,000	298,467	△88,467	
指定寄付金	0	0	0	
特別寄付金	0	0	0	
その他寄付金	0	0	0	
3. 助成金収入	4,200,000	3,155,000	1,045,000	2,500,000
4. 自主事業収入	16,595,000	15,016,934	1,578,066	15,362,000
5. 受託事業収入	0	170,000	△170,000	0
6. 雑収入	0	6,554	△6,554	0
7. その他の収入	0	0	0	1,548,000
当期収入合計(A)	27,537,000	24,581,955	2,955,045	26,808,000
前期繰越収支差額	17,691,002	17,691,002	0	11,530,881
合計(B)	45,228,002	42,272,957	2,955,045	38,338,881

II 支出の部

科目	2009 年度予算額	2009 年度決算額	差異 (2009 年度)	2010 年度予算額
1. 事業費	12,535,000	9,367,721	3,167,279	7,898,000
ネットワーク事業	2,815,000	2,110,855	704,145	1,540,000
調査研究事業	3,360,000	2,687,730	672,270	2,293,000
情報出版事業	4,650,000	2,658,537	1,991,463	2,554,000
研修講座事業	1,710,000	1,910,599	△200,599	1,490,000
政策提言事業	0	0	0	21,000
2. 事務管理費	16,758,000	16,481,117	276,883	18,910,000
人件費 ※1	10,503,000	10,091,793	411,207	
事務所賃貸料	1,737,000	1,880,970	△143,970	
その他事務費等	4,518,000	4,508,354	9,646	
3. 雑損失	0	26,690	△26,690	0
4. その他の支出※2	0	4,866,548	△4,866,548	850,000
当期支出合計(C)	29,293,000	30,742,076	△1,449,076	27,658,000
当期支出差額(A-C)	△1,756,000	△6,160,121	4,404,121	-850,000
次期繰越収支差額(B-C)	15,935,002	11,530,881	4,404,121	10,680,881
合計	45,228,002	42,272,957	2,955,045	38,338,881

※1 人件費はすべて事務管理費に計上しています（事業に関わる人件費も含む）。

※2 その他の支出のうち 2009 年度は約 80 万円は商品在庫除却、400 万円は「30 周年記念基金」への繰入です。2010 年度の 85 万円は退職給付引当計上です。

3. 2010 年度事業計画

2012 年には DEAR 設立 30 周年を迎えることを見据えて、これまでの事業や組織のあり方、社会への影響についてふりかえり、評価し、これからの開発教育の課題や役割を考えてきたいと思えます。昨年度創設した 30 周年記念基金を用い、教材の作成や記念事業の準備を進めていきます。

DEAR の 5 つの中期方針の中では、各地の担い手と協力して全国各地の足もとの課題に焦点を当て、世界の課題とつなげていくこと、低学年でも学習しやすい環境をつくること、また、国際協力 NGO と協力し、世界の貧困や開発問題への意識喚起をすることなどに力を入れています。2010 年度は本方針の中間年となるため、中間評価を行ないながら、5 つの柱を評価、修正し、2012 年の各目標の達成をめざします。

事業は従来の 4 つの領域（Ⅰ. ネットワーク事業、Ⅱ. 調査・研究事業、Ⅲ. 情報・出版事業、Ⅳ. 研修・講座事業）に新たにⅤ. 政策提言事業Ⅵ. 組織強化事業、を設けて、実施していきます。

全ての事業を中期方針と結びつけることは難しいですが、できるだけ中期方針に沿って、体制を整え、戦略的、具体的に各事業を実施していきます。5 つの中期方針については以下のようにすすめていきます。

1. グローバル化による諸課題を足もとの課題から捉える視点を広げる

国内の貧困や格差、各地域のグローバル化に伴う様々な問題にも象徴される、私たちの足もとの問題に取り組む方法や、ファシリテーションについて、各地域の実践や経験を共有しながら学ぶ場を作っていきます。具体的には、ESD 人材研修会として各地域の課題への取り組みを共有する機会とします。また、全国研究集会や教材体験フェスタなどで足もとの課題を扱う教材やワークショップを積極的に行い、実践を広く共有します。また、会報や研究誌においても積極的にテーマとして取り上げていきます。

2. 学校教育への具体的提案

学力重視の新学習指導要領が施行される教育現場において、学校文化や学校の学習環境がより民主的なものになるよう、学習内容に参加型学習や、コミュニケーションスキルの要素を入れたカリキュラムづくりや研修プログラムの体系化を進めます。特に、低学年でも実施しやすい開発教育の実践を集め、広く共有していきます。具体的には、CR 教育研究会や授業づくりサークルなどで、教育

現場で応用できるカリキュラムを作成し、提案していきます。

3. 国際協力 NGO への開発教育支援

2010 年はミレニアム開発目標（MDGs）の中間年を迎えます。世界の貧困や飢餓、開発問題をより多くの人々に知ってもらい、問題解決に向けて行動してもらうための啓発活動を国際協力 NGO と協働しながら実施します。具体的には、「動く→動かす」や教育協力 NGO ネットワークの会員としてキャンペーン活動や、啓発活動に協力したり、国際協力 NGO が既にもっているツールや教材を広く紹介し、開発教育を通して世界の状況への関心を高めていきます。

4. 地域との具体的連携

全国各地で、地域の課題を扱った教材づくりや、開発教育を活かした活動が行なわれています。地域の取り組みの課題を共有し、教材づくりや調査・研究などの事業を協働で取り組んでいきます。

具体的には、方針 1 で挙げた ESD 人材育成研修で、地域の課題に取り組むファシリテーションのあり方を共に学んだり、経験交流を通して、有機的なつながりを構築していきます。

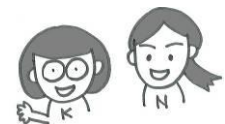
5. 組織基盤の強化

自己財源の安定化のために、書籍販売と講師派遣、協力事業などに力を入れています。そのためにも、現在持っているデータをより効率よく活用するための管理システムを導入し、試行します。

また 2012 年の設立 30 周年に向けて、今までの事業や組織のあり方をふりかえり、評価する部会を立ち上げます。またこのような事業を実施する持続可能な事務局体制をつくるために、事務局員の待遇改善にも力を入れます。

みなさまのご支援・ご協力・積極的なご参加をお願い申し上げます。

事務局の職員体制



事務局長	中村 絵乃 (専従)
事務局次長	西 あい (専従)
事業担当	宮崎 花衣 (非専従)
事業担当	八木 亜紀子 (非専従)
経理担当	大久保 美智彦 (非専従)
総務担当	中田 洋子 (非専従)